

令和2年度 環境活動スタート事業

1 実施校

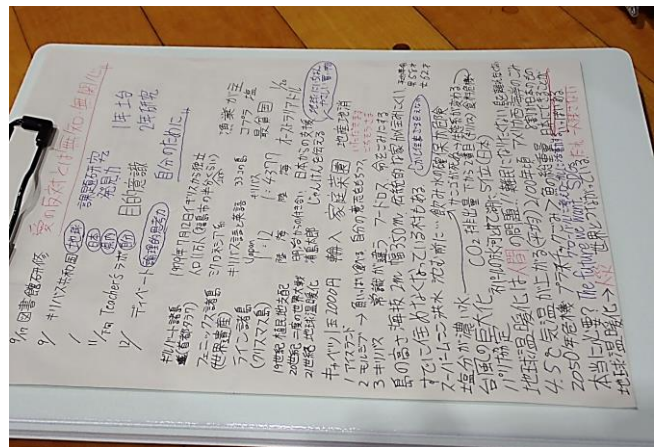
福島県立福島高等学校（1年生）

2 実施日

令和2年9月29日（火曜日）

3 内容

「だれ一人取り残されないために＝僕の国キリバスからのメッセージ＝」をテーマに、一般社団法人日本キリバス協会代表理事のケンタロ・オノ氏による講演会を行いました。キリバスの歴史や現状、また、地球温暖化が及ぼす影響について、資料映像（VTR）や写真を交えながら分かりやすく説明しました。



4 講演を聞いての感想、新たに得た知識や考え方の変化

今までは、「地球温暖化について考えてみよう」と言われても何を考えるのかわからなかったが、今回、実際に地球温暖化の影響を受けている地域の話聞いて、地球温暖化がとても身近に感じられた。「世界で話し合いはたくさんされているが、行動にはうつされていない」という言葉には納得した。自分自身も行動に移していることは少ないので、できることから少しずつ行動に移していきたいと思います。

地球温暖化を他人事に考えている場合ではないと思った。実際にキリバス人のケンタロ・オノさんから貴重な話を聞いて、特に「世界は海でつながっている」という言葉が印象に残った。誰かが川にゴミを捨てれば、キリバスにそのゴミがたどり着く可能性もある。このことが1番自分事として感じることでできる例だと思った。

廃棄される食料が多いことはニュースで知っていたが、「いただきます」「ごちそうさまでした」と言うのは日本人だけだとは知らなかった。また、「いただきます」と日本人が言うのは、命をいただいていることを理解しているからだ聞き、食べ残しをすることは命を無駄にすることで、恥ずかしいことだと思った。

小学生の頃から地球温暖化について問題意識をもって、ずっと考えていた私は、今日の先生のお話でとても大きな衝撃を受けました。遠い国で起こっている問題ではなく、確かに私たちの目の前にあって、一人一人が意識を変えることでしか解決しない問題だということを改めて学ぶことができました。私は、「最後の防波堤」である日本の国民として、そして福高生として、積極的に解決に向けて力を尽くしていきたいと決意できました。今日の講演は一生忘れません。

今までは、私の小さな努力なんて、地球規模の問題にちっとも影響しないだろうし、ほぼ無意味なことだから、やらなくてもいいだろうという考えだった。今回の講演で、世界の島国の人々など多くの方が地球温暖化に毎日おびえながら暮らしている現状を知ることができた。それと同時に、同じ島国である日本では、ほとんど危機感をもつことなく暮らしている今の現状はおかしいと思った。自分たちは、生まれた場所が違うだけで、それぞれに思い出の場所や故郷がある。そう言われて自分の生活を置き換えたときに、胸が締めつけられる思いになった。故郷がなくなるかもしれないという危機にさらされている国の人々の思いは計り知れない。今、私たちにできる1つ1つの小さな取り組みが、ほんの少しでも地球温暖化を食い止め、改善につながるのではないかと考えた。かつては、国や地球の小さな問題と考えていたが、これは私たちのすぐ身近で起こっている重大な問題なのだ気がついた。まずは、関心をもって調べる。そこから始めたい。

今回の講演会を聞いて地球温暖化に対する考え方がかなり変わりました。聞く前は、日本でも影響を受けているとはいえ、台風などの自然災害で表れてくるため印象が薄かったです。しかし、講演を聞いてみると、日本以外の国では、村が水没したり、美しい景観が失われたり、人生を奪ったりしていることを知り、地球温暖化が思っていた以上に現実的になりました。そして、今まで電気に甘え、自分がたくさんのCO₂を出していたと思うとむなしくなりました。これからは、地球温暖化という課題から目を背けず、自分になにができるのか考えていきたいです。

今回の講演会では、先生の熱のこもったお話を聞くことができ本当に嬉しかったです。お話の最後の方に出てきた子どもたちの写真と「この子たちを難民にするのですか」という言葉がはっきりと焼きついています。お話を聞いてから、地球温暖化に対する意識ががらっと変わり、「自分に出来ること」を考える時間がとても増えました。「愛の反対は、憎しみや恨みではなく、無知や無関心だ」という言葉にあるように、「知らないまま」にせず、愛をもって地球温暖化を考えていきたいです。ありがとうございました。

キリバスの人々と福島県民は“人災”の被害を経験したという共通点がありますが、福島は復興に向かっているのに対し、キリバスは刻一刻と命の危機が迫っているという違いがあります。福島は、たくさんの支援を受けて今があります。その支援の輪を世界規模に広げられれば、地球温暖化もきっと解決できるはずです。

今回は、お忙しいところ貴重な講演をありがとうございました。

先生の大変情熱的なお話から、いかに地球温暖化が私たちの地球に深刻な被害をもたらしているのか気づかされました。私は、先生のお話を聞くまで外面的に起きている現象を知っているばかりで、実際に被害を受けている方の心まで考えていませんでした。地球温暖化に対する理解は、被害（現象）と被害を受けている人々の心の両方を知った上で成立するのだと思います。なぜなら、この2つを知らなければ、理解から思考、そして、思考を実行に移せないからです。この地球上の誰かの故郷が二度と戻れない場所になりつつある状況で、私たちにあれこれ悩む時間は残されていないはずです。とにかく、今は各々が考える温暖化対策をすぐに始めながら、この現状を広く発信して、「より多くの人」ではなく「全員」で温暖化を食い止めるべきだと思います。また、この対策を習慣化させ、当たり前で継続させられるようにすると良いと思います。

地球温暖化がもたらしている被害は深刻ですが、これが改善された先にある未来は、現在の私たちには想像もできないような可能性が秘められていると考えています。今後、自然が応えてくれることを信じて、果敢に立ち向かっていきたいと思っています。今回は、本当にありがとうございました。